



**JDAA**  
Japan Deaf Athletics Association

# 一般社団法人 日本デフ陸上競技協会

事業名：`映像で観戦される方、を意識、字幕や手話を織り交ぜた映像制作、中継配信スタイルの確立事業` ならびに、`競技場へ来場される方、を意識、場内ビジョンの活用、上記映像の転用などから場内演出の確立事業`



©JDAA

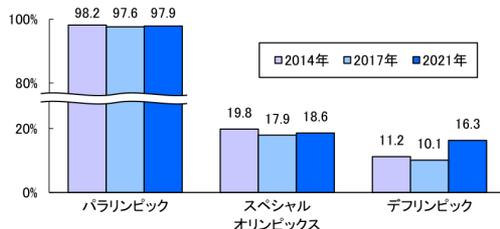
事業名： `映像で観戦される方、を意識、字幕や手話を織り交ぜた映像制作、中継配信スタイルの  
 確立事業` ならびに、 `競技場へ来場される方、を意識、場内ビジョンの活用、上記映像の  
 転用などから場内演出の確立事業`

## 事業実施の背景・課題、目標

2025年東京デフリンピック開催を意識しています。

2022年9月に国内初となる東京都で聴覚障がい者のオリンピックでもある「デフリンピック」が開催されることが決まりました。  
 ですが、2021年調べで認知度がわずか「16%」と低く、注目度も低いままです。

図表1 日本におけるパラリンピック・スペシャルオリンピックス・デフリンピックの認知度<sup>\*1</sup>の推移(2014・2017・2021年<sup>\*2</sup>)



\*1: 認知度は、「パラリンピックという言葉を知っていますか」という質問に対して「内容を知っている」「見たり聞いたりしたことがある程度」と答えた割合の合計。

\*2: 調査時期はそれぞれ2014年9~10月・2017年3月・2021年10月、回答者は20~69歳男女1,560人・1,560人・5,000人。

資料：日本財団バラスポーツサポートセンター パラリンピック研究会・青山学院大学 小堀真研究室共同研究「東京2020パラリンピック競技大会後における国内外一般社会でのパラリンピックに関する認知と関心 第3回調査結果報告」2021年

様々な問題はあるが...  
 認知度の低さ = 支援の少なさ



**競技力↓・運営力↓・組織力↓**



認知度を上げる取組

- ①競技普及の為の新たな「魅せる」スポーツの確立
- ②積極的な普及活動の実施（デフ陸上教室）
- ③デフアスリートが不自由なく競技会へ参加できる取組



**注目度↑・認知度↑・理解度↑ = 支援の向上↑**

- ・経営の安定化：補助金に頼らない運営
- ・人材の活用：適材適所の人材が確保できる
- ・新たな取組へのチャレンジ etc...



**デフアスリートが輝けると  
 共に健聴者との共生が実現**

# 令和5年度の取組内容 NO.1

## 取組名：主催大会での新たな魅せる（見せる）観戦スタイル転換とファンエンゲージメントの確立

- 2023World Games of Deaf Athletics Teams 兼 第20回日本デフ陸上競技選手権大会での聴覚障がい者に対する情報保障を担保した映像にエンターテイメント要素を加え、映像で観戦する方に魅せる（見せる）陸上を発信する。
- 民間企業と共同で最新テクノロジーを活用し競技場内ビジョンや映像技術、アプリやネット技術を活用し障がいの有無にかかわらず、楽しめるスポーツ観戦、観客参加型のスタイルへ転換しファンエンゲージメントの拡充を目指す。
- 上記を実践し、2025年東京デフリンピックに向けて、聴覚障がい者スポーツをいかに見せる（魅せる）かの実証例を確立させ、より多くのファン層の獲得を目指す。

## 令和5年度の取組の進捗・成果・課題

### 【令和5年度の進捗・成果】

○ノウハウのある民間企業と連携し、リボンビジョンや場内ビジョンの投影を行った。民間企業とは、月1回程度の定例の会議や、大会直近では、会場下見などを一緒に行うことで、コミュニケーションをとり、実施体制の強化やノウハウの構築を実施した。また、東京陸上競技協会や会場の管理者と連携を深めたことで、事前準備を円滑に行い、会議にも積極的に主席することで幅広く知見を獲得することが出来た。

### 成果

公式配信映像（YouTube）の再生回数  
約5400回 約8500回(150%)へ増加



### 課題

### 【令和5年度に生じた課題】

- ① 新規取組“リボンビジョン”のより良い視認性の確保をさせるため、ビジョンの置き位置や表示の方法の課題がある。
- ② 通常のスポーツ中継に付加する手話などの情報保障の対して運営ノウハウ不足に課題がある。
- ③ 運営スタッフの人的リソース不足など恒常的な課題がある。その上でPR動画やポスター掲示など大会を広報する取組を増やしたい。

# 令和5年度の取組内容 NO.2

## 取組名：デフ陸上教室・スタートランプ体験の普及支援事業と聴覚障がい競技者サポート事業

### ① 小中学校向け、デフ陸上教室開催

全国各地や全国の教育機関（小中高大学、特にろう学校）などへ、デフアスリートを派遣し、手話を活用した陸上教室、デフリンピック啓発の講演会などを行い、企業や団体と一緒にデフ陸上競技の普及活動を行い、将来や今後の会員数増加の取組を実施する。

### ② 各地イベントでのデフ陸上教室と普及活動

全国各地でのイベントに参加、デフアスリートやスタッフを派遣し手話を活用した陸上教室、デフリンピック普及活動などを行う。また、当協会がデフ陸上イベントを企画し、地域の子供たちを中心にデフ陸上競技の普及活動を行い、将来や今後の会員数増加の取組を実施する。

### ③ 大会・競技会などでのデフアスリート支援

日本陸連、全日本実業団などの健常者競技団体と連携し、各地の各団体主催大会へデフ選手を積極的に受け入れてもらい、象徴でもある、スタートランプを使用する。ランプを使用した大会を多く開催することで、デフ陸上の認知が増え理解が進み、より多くの支援と協力を得られる。

## 令和5年度の取組の進捗・成果・課題

### 【令和5年度の進捗・成果】

- ① 小中学校向け、デフ陸上教室開催
- ② 各地イベントでのデフ陸上教室と普及活動

### 成果



### ①②デフ陸上教室・普及イベント

多く開催ができた。2025年東京デフリンピック開催の影響が多く、デフアスリートに注目がされていることが確認できた。教室やイベントでは選手の講演やスタートランプ体験を通じて、多くの人と交流ができ、健聴者にも広く認知がすすんでいくことを期待している。



### 課題

### 【令和5年度に生じた課題】

### ①②デフ陸上教室・各地イベントでのデフ陸上教室と普及活動

デフ陸上教室や普及イベントなど、依頼が都度入るため、年度当初の予定より多く実施できた。来年度以降も依頼が増えることが予想される為、随時対応していきたい。また、対応できる講師やスタッフが少ないため、サポートスタッフへの指導や教育を行いたい。



### 【令和5年度の進捗・成果】

- ③ 大会・競技会などでのデフアスリート支援

### 成果



### ③大会・競技会などでのデフアスリート支援

デフアスリート大会支援は単にデフアスリートを支援する事ではなく、大会に参加することで、健聴の競技団体と連携を取り、障がい者理解に努められたと感じる。聴覚障がい者が大会出場についてどのようなことに困っているか、どのようなサポートが必要か、また、過剰なサポートは不要である事など、少しずつではあるが、聴覚障がい者への配慮や理解が進んでいくよう今後も支援を続けたい。

### 課題

### 【令和5年度に生じた課題】

### ③ 大会・競技会などでのデフアスリート支援

大会支援では、計画していなかった、国体支援を計上したが、トラックのデフアスリートが国体に参加することが初めてのことで、当初計画では計上していなかった。予選会のある大会では事前の計画が難しいことが現状です。



# 本事業の成果目標・KPIの達成状況

## ①成果目標・KPI 1 SNSなどを駆使しデフ陸上の理解、普及、啓蒙などの広報活動を実施する

会員の増加 令和4年度：108人 令和5年度：131人（120%増加）

賛助会員の増加 令和4年度：4人 令和5年度：7人（175%増加）

・会員数は増加したが、賛助会員を多く増やす取組に力を入れたい → 例：大人向けデフ陸上教室開催など。。。

## ②成果目標・KPI 2 主催大会において、革新的な配信事業、来場者サービスを実施する

再生回数 令和4年度：5400回 令和5年度：8500回（150%増加）

・運営スタッフの人的リソース不足等恒常的な課題がある。その上でPR動画やポスター掲示など広報活動を増やす

## ③成果目標・KPI 3 デフ陸上の理解、普及、啓蒙などの広報活動と連動したデフ陸上教室・啓発イベントを実施する 陸上競技会などへのスタートランプ、聴覚障がい者競技者へのサポートを実施する

目標：デフ陸上教室6回以上 → 27回実施（見込）

目標：大会サポート5回以上 → 13回実施（見込）

・実施回数は十分であるが、派遣講師やスタッフの負担が多く、人材の確保、教育などに努めたい

# 令和6年度の実施予定

### 【令和6年度の取組内容】

#### ①デフ陸上教室を通じて、デフスポーツの普及発展を目指します。

・デフ陸上教室の計画は、デフスポーツの魅力を広く伝え、子どもたちに健康的で楽しいスポーツ経験を提供することに焦点を当てます。地域コミュニティとの連携や広報活動を通じて、デフスポーツの理解と受容を促進し、持続可能な発展を目指します。

#### ②映像制作と場内演出の確立を通して、視聴者と来場者の両方に向けてエキサイティングで包括的なスポーツエンターテインメントを提供します。

・デフアスリートとそのサポーターに向けたデジタルコンテンツの提供と、競技場での視覚的な演出により、デフスポーツのアクセシビリティを向上させる。

・視聴者の拡大: 映像制作を通じて、言語や聴覚の制約のある視聴者を含む多様な観客層を獲得し、デフスポーツのファン層を拡大する。

・競技場での魅力的な体験: 場内ビジョンの活用や映像の転用により、競技場での観戦をより魅力的かつ参加型にし来場者の満足度を向上させる。

#### ③デフアスリート支援

・デフアスリートが大会や競技会で手話通訳やスタートランプなどの情報保障を受けることは非常に重要です。これにより、アスリートは安心して試合に臨むことができ、公正かつ円滑な競技環境を確保できます。

・デフアスリートへの手話通訳や情報保障の提供は、競技において平等な機会を提供し、アスリートが最大限のパフォーマンスを発揮できるようサポートします。

